

## マック店員 VS 私 真昼の攻防！？

経営情報学部4年 田中 千尋

「Are you ready to order?」（ご注文はお決まりですか？）

目の前の店員は愛想よく話し掛けてくれた。私は大学2年生のときに春休み期間を使い、短期留学に行った。その短期留学中の際に、昼休みに語学学校の近くのマクドナルド（以下文中ではマックと略称する）にご飯を買いに来ていた。私が知っているマックとは違い、内装も灰色であり薄暗く、数少ない席にはいかにもがらの悪そうな人々がハンバーガーを片手に食べていた。その様子を見て、私は「とにかく怖い」と入店して数秒で後悔した。

その時点で出ておけばよかったのに、入ったからには何かを買わないと失礼だろう精神が働き、ハンバーガーを食べている人達とは目を合わせないようにとにかく前に進んだ。

そして、冒頭のようにレジの店員が私に話し掛けてくれた。店員の様子を見て少し冷静さが戻った私は注文しようとメニュー表を見て、固まった。メインになる筈のハンバーガー種類がどれを見ても理解できなかったのである。画像などがあればよかったのだが、私が立ち寄ったマックでは文字しか書かれていなかった。スマホはWiFi圏外で使えず、翻訳機能で調べることさえできなかった。そこから私と店員の注文という名の攻防が始まったのである。

私が注文したいと思ったのは、ベーコンレタスバーガーセットであった。全く英語が読めないという訳でもなかったのですが、ベーコンやレタスという言葉を探した。3つくらいそれらしきものがあったので、それを指差して、『What's this?（これは何？）』なんて聞きながら、15分間という長い時間を掛けて、ようやくベーコンレタスハンバーガーらしきものを選んだ。その後もポテトとドリンクのセットを頼んだ。だが、頼んだハンバーガーを口に入れた途端に私は咳き込んだ。辛かったのだ。辛さを紛らわせるために必死に水を飲んだ。

多摩大学でもそうだが、先生たちは学生たちに「短期でもいいから、留学の方がよい」と言う。それはただ本場の語学を学ぶことができるということではなく、留学を通して「知らない世界がある」という

ことを知って欲しいからだと私自身は解釈している。

現に私は留学しなければ、私はマックが場所や国によって、こんなにも雰囲気の違う場所であるということを知らなかった。だから留学しようという話ではなく、極端なこと言うと留学しなくても良いのである。ここで話したいのは「知らない世界」を知る方法として、留学が一番手取り早いということである。大学生活が4年目に差し掛かって、私が思うのは教育や学びの本質には私達の「好奇心」は無くしてはならないということだ。

LIVE THE WAYの『学びにまつわる名言30選』によるとイタリア・ルネッサンス期の天才と呼ばれるレオナルド・ダ・ヴィンチも『情熱のない勉強は記憶を駄目にする。取り入れたものを何も保持できなくなってしまふ』という言葉を残しているようだ。ここで言う情熱とは「探求心」ではないかと思う。そして、探求心を持つためには「好奇心」を持っているということが前提になるはずだ。好奇心を持つきっかけは食べ物や昼寝したいなど何でもいから物事に興味を持つことが大切だと思う。



認定証明書の授与



留学先の有名な植物園で友人たちとの一枚



アルカトラズ島での一枚



友人たちとのランチ

## 自信をもって言えること

グローバルスタディーズ学部 4年 山田 華

私は比較的普通な大学生活を過ごしてきました。サークルには所属せず、学びたい授業を受講し、アルバイトをしたり、友達と遊んだり、多くの大学生が通っている道を通り過ぎてきました。ですがこれだけは絶対頑張ったと自信をもって言えることがあります。それは4年間続けてきたオープンキャンパスのスタッフです。

高校3年生の頃、進路に悩んでいる時に顧問の先生から多摩大学グローバルスタディーズ学部を紹介して頂きました。実際にオープンキャンパスへ行き、親身に相談に乗ってくれる職員の方や1～4年生まで仲良く交流している当時の在生を見て、絶対にこの大学に入ろうと思い、オープンキャンパスのスタッフをやるという事を決意しました。

大学生になって私は本当にオープンキャンパススタッフになることができました。

ひたすら大学のシステムやスタッフの仕事を覚えた1年生。たくさん働き、様々なセクションを経験した2年生。上級生として後輩に仕事を教えた3年生。そして4年目、私は現在オープンキャンパススタッフの統括をしています。

先輩からの打診で統括となりましたが、最初はリーダーとしての経験があまりなかったことからみんなを引っ張っていけるのか不安も感じていました。しかし相談に乗ってくれる先輩、入試課の職員の方々。私を慕ってついてきてくれる後輩たち。そして何より一緒に頑張ってくれる同級生。たくさんの人たちに支えられてここまでやってこれることができました。まだまだ未熟な統括ではありますが、スタッフにとっても高校生の生徒さんにとっても、楽しく、温かい雰囲気のオープンキャンパスを提供できるよう目指します。そしてオープンキャンパススタッフをしていて何よりうれしいのは、キャンパスツアーにご案内したり、対応したりした高校生が実際に入学してくれることです。残りの半年間、入試に向けて動き始める高校生の生徒さんをサポートし、私が今まで培ってきたすべての経験を来年度のオープンキャンパスへ繋いでいきます。

私はオープンキャンパススタッフを通して指示の出し方、臨機応変に動く術、コミュニケーションの取り方など様々なことを学ぶことができました。今までの経験全てが私を形成して、今後生きていくと確信しております。これから社会人になる上で多くの学びや経験を得ることができたのは私の誇りです。この場を借りてオープンキャンパススタッフに関わった全ての方に感謝いたします。そしてあと半年私と一緒に頑張りましょう！！



お客様への対応



先輩方最後のオープンキャンパス